

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立（山内東）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	70.4	54	67.9	55
	(1.15)	(0.96)	(1.09)	(1.05)
R8 正答率の全国比		0.88		0.97

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・ 6 年時の結果を見ると、全体の平均正答率は、県や全国の平均正答率を下回っている。
- ・ 観点別に正答率を見ると、「知識及び技能」「思考・判断・表現」において県、全国の正答率を下回っている。
- ・ 「思考・判断・表現」の内容の中で、特に「書くこと、読むこと」において、県の正答率をやや上回ったが、全国の正答率より下回っている。
- ・ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題において、県や全国の正答率を大きく下回った。

【算数】

- ・ 全体の平均正答率については県の平均正答率を上回ったが、全国の平均正答率より下回っている。
- ・ 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらも県の正答率を上回っているが、全国の正答率よりやや低かった。
- ・ 「図形」と「測定」の領域において県や全国の平均正答率を上回った。一方で、「変化と関係」の領域では、県や全国の平均正答率を下回った。
- ・ 基準量、比較量、割合の関係を捉え、正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題では、校内における平均正答率が低かった。

【意識調査】

- ・ 「毎日朝食を食べる」「同じくらいの時刻に寝る」「同じ時刻くらいに起きる」の項目で、県や全国よりも高く、生活リズムが整っていると言える。
- ・ 「自分には、よいところがある。」や「人の役に立つ人間になりたい」と
- ・ 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」また、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」等では、県や全国と比較して肯定的な回答が低かった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・課題解決に向けた具体的な手立てとして、単に答えを出すだけでなく、「なぜその式になるのか」「図のどこからそれが分かるのか」友達と話し合う場面を設定する。
- ・毎時間の授業に「目的の明確化」「多様な学び方の設定」「振り返り」の3要素を取り入れることで、自ら学びを調整しながら探究を深めていける児童を育む。
- ・毎週2回、朝の時間の10分間スキルタイムを設けて、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭でする学習時間をあたりまえに位置づけさせるために、学習時間を意識させ、学力の向上を図る。また、家庭学習、早寝早起き時間調査を年に2回実施し、継続して家庭との連携を図る。
- ・図書館教育の推進の一つとして、学年に応じた年間目標冊数を決め、達成したら「読書マイスター」として紹介することで、読書が学校生活・家庭生活の一部となるよう取り組む。